

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 4 7	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol screening in dental patients: the prevalence of hazardous drinking and patients' attitudes about screening and advice. 歯科患者における飲酒に関する問診 問題飲酒の有病率と問診とアドバイスに対する患者の態度	
執筆者	
Miller PM, Ravenel MC, Shealy AE, Thomas S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Am Dent Assoc. 2006 Dec;137(12):1692-8; quiz 1730-1.	
キーワード	
アルコール、アルコール依存症、飲酒に関する問診、飲酒についてのカウンセリング、患者の態度	
要 旨	
<p>背景:</p> <p>多量飲酒は口腔ガンリスクであるため、歯科医は患者の飲酒状況について検査すべきである。歯科患者における多量飲酒者の状況と、飲酒についての問診に対する患者の態度を検討した。</p> <p>方法:</p> <p>歯科救急外来を受診した 408 名を対象とした。患者らは、アルコール摂取障害識別検査 C (Acohol Use Disorders Identification test-C(AUDIT-C))、および3項目飲酒検査を記入した後、歯科医による飲酒についての問診・カウンセリングに対する考えと受け入れやすさについて、意見を訊ねられた。</p> <p>結果:</p> <p>4人に1人の患者が、多量飲酒検査で陽性であった。大部分(75%以上)の患者が、歯科医が飲酒について問診しアドバイスを与えることを支持した。年齢、性別、および飲酒状況は、飲酒問診に対する患者の態度の予測因子ではなかった。</p> <p>結論:</p> <p>103 名の歯科患者が、口腔咽頭ガンの危険因子である問題飲酒を行っていた。大部分の患者は、歯科医による飲酒問診とアドバイスを受け入れると答えた。</p> <p>臨床への影響:</p> <p>患者には受け入れられないだろうという先入観のため、歯科医は飲酒についての問診を躊躇するという研究が複数あるが、今回の結果は、歯科医の行動が変わるきっかけになるものと考えられる。</p>	